

2013 5/28

No.1947

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



初夏の横浜港をにぎわす第30回横浜港カッターレース（同実行委主催）が19日、横浜市中区の山下公園前海上で行われた。3部門で209チーム、約2千人の選手が参加し、海風を体全体で感じながらコースを疾走した。



政経かながわ

contents

2013 5/28 No.1947

視点・点描	3
収穫いっぱい、再生の棚田	
講演録	4
「参院選を見据えた安倍政権の経済・財政運営の課題」	
共同通信社経済部長 谷口 誠	
政治	8
原発再稼働に過半数が反対	
比例投票先、維新は後退	
国際	10
朝鮮戦争休戦協定日がヤマ	
功績づくり目的に緊張維持	
暮らし2013	12
慢性炎症抑え、老化防止を	
広告珍談	14
～うまい物がたり⑮	
となりは災難？	
経済反射鏡	15
日本原電に救済策浮上	
東電「変身」案と連動	

事務局だより

◇横浜定例講演会・ミャンマー経済セミナー

2013年6月19日(水) ホテル、ニューグランド

▽講演会 13時～14時45分。
講師、演題は経済産業省関東経済産業局長の宮川正氏が「日本とミャンマーの経済関係の可能性」、共同通信社ミャンマー経済クラブ企画顧問(元JETROヤンゴン事務所長)の荒木義宏氏が「民主化で広がるミャンマービジネスの魅力」

▽交流会 15時～16時30分

視点 点描



収穫いっぱい、再生の棚田

丹沢のふもと、秦野市名古木^{ながめき}の棚田がにぎやかになってきた。新芽を出したクスギやコナラの雑木林の上空を猛禽類^{もうきんるい}ノスリが旋回する。間もなく現れる「ごちそう」

の小動物を待っているのだろうか。命ほとばしる里山、再生の主役は人間のおやじたちである。

国道246号からほど近いのに、小山に囲まれ静寂な深山の趣がある。地元農家が米作を断念し

棚田は荒れていた。NPO法人自然塾丹沢ドーン会が11年前、耕作を引き受けた。再生の先頭に立ったのは最近、各地の市民活動でおなじみとなった団塊世代だ。

戦後日本を支えたとの自負からか声の大きい世代だが、このの団塊たちはどこか違った。自己主張より協調を好み、空疎な訓示を垂れない。人の微妙な心のひだを大切にした。だからこそ、多くの後

輩世代が再生の夢に加わった。

里山の自然は人が手を加え続けない限り守れない。おやじたちは一応、理屈を語った。本当は疲れていたのかもしれない。組織の真ん中で壊れかけた心と体を再生したいと、本音も垣間見た。

棚田のリーダーを担った50代の男性は、技術者の職を捨て早期退職を選んだ。いまは古里・秋田で親の田畑を引き継いだ。時折、名古木に戻る。顔つきが、繊細な技



術者から自信に満ちあふれた農業者のそれに変わった。現在の棚田主任は南米音楽演奏家。ボリビアで音楽修行を重ね、縁あって名古屋にたどり着いた。ギターを弾く手で泥と格闘する。

農薬や化学肥料を使用しない棚田にはアカハライモリ、ホトケドジョウ、オタマジャクシが戻ってきた。人間の方も大学生、家族連れ、若い女性会社員と多彩に。多くの女性が活動を支える。

毎年、雑草を除き竹林を開墾し耕作面積を広げた。農業教育の専門機関で研修を受けたメンバーもいる。27枚の棚田ではいま、米約500^キ口の収穫がある。参加者は分け前の米だけでなく、貴重な人生の収穫も手にする。ことしの田植は6月1日である。

(神奈川新聞社編集局整理部長

小野 明男)

となりは災難？

下の広告をご覧になりながら、お読みください。

A かなり大胆ですな。

C 威圧されますね。

D 力強いものです。一頁の価値は十分あります。

C 〓この絵のやうな線はなかなか使へないものですが……。

E 〓どつしりとした中に、ユーモラスな感じがするところがいいんですな。

B 〓この広告は大衆を目標としたものではなく、調理場の人々を対象として作られているそうです。

F 〓この広告と一緒に組まれた広告は、災難とあきらめるんですね。

みんなで、味の素の広告をほめてゐる。新聞広告のデザインの審

査風景である。1930(昭和5)

年、日本電報通信社(広告代理店

《電通》の前身)は、創立30周年

の記念事業として、「新聞広告奨

で2等になった。その審査員の評である。

1911(明治44)年、百貨店

三越がボスターのデザインを募集

(1等の賞金一〇〇〇円、小学校

の先生の初任給は当時、15円だっ

た)として以来、コンクール・プ

ム。17(大正6)年、「味の素」

に使った味の素」

「味の素をば平たく言へば舌

で鼓をうつと読む」

「春の明石に所帯を持てばな

くちや須磨^{すま}ない味の素」

34(昭和9)年、広告のキャッ

チフリーズも公募した。応募数約

43000。1等の該当作はなく、

2等以下の入賞作を新聞広告で発表した。

「味の素アリ、まづい物ナシ」

「味よく、食よく、よく太る」

「味覚日本晴れ」

「舌へ忠、腹へ孝」。

この4作が2等、賞金50円。

「味の日の丸」。「美味満員 味

覚売切」など6作が3等、賞金20

円であった。

濟まないを「須磨ない」、食欲

を「食よく」に置きかえて、しゃ

れたコピーである。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住)

(図)味の素の新聞広告・192

9(昭和4)年掲載



励会」を設立。全国の新聞に掲載

された、広告のデザインとコピー

を審査、表彰した。この広告は前

年5月に掲載され、第1回の審査

を読み込んだ都々逸(7・7・7・

5型の俗曲)を公募。入賞作を新

聞広告で発表した。

「祭り騒ぎの勝手も便利 ダシ